

クリニックでのメディカル健康運動の取り組み&

腹部診療～とくに「胃・大腸内視鏡検査と診断」

芦屋 隼 しいだ内科クリニック 飯田 哲士

<http://iida-clinic.net> メール ashiya-r@iida-clinic.net

これからの日本は、2025 年には、団塊の世代が 75 歳を超えた超高齢社会となり、国民の 3 人に 1 人が 65 歳以上、5 人に 1 人が 75 歳以上という、人類が経験したことのない『超・超高齢社会』を迎えます。

高齢になると一番気がかりになるのは、認知症問題です。

そして、避けられない“老化”からくる「サルコペニア」と「フレイル」問題です。

それらの状態に至る前、健康増進が必要な時に（生活習慣病、メタボリック症候群、ロコモティブ症候群等）運動習慣・生活習慣の意識づけ、また、専門家にアドバイスが受けられる環境づくりを行うことにより、いかに生きがいのある生活をして健康長寿を延ばせるか。そしてそれには、楽しみをもった社会活動への参加がより大切であると考えます。

内科医としての使命、当院での取り組みを交えて、解説・ご紹介させていただきます。

後半は、腹部診療～とくに「胃・大腸内視鏡検査と診断」と題し、われわれ医師が腹痛の患者さんを診させてもらった時に、どのように考え、診断していくのか話させていただこうと思います。

特に当院では、“胃・大腸がんによる死亡者を出さない。”をモットーに胃・大腸内視鏡検査（胃・大腸カメラ）を積極的におこなっています。

実際の内視鏡画像をまじえて、ご紹介させていただきます。

そして、いまの医療では、まだガンを克服できていません。いまは、3 人に 1 人、2 人に 1 人が、がんでお亡くなりになる時代です。

もちろん予防医療が大切ですが、定期的に健康診断、ガン検診（特に、胃や大腸に関しては、内視鏡検査）を受け、できるだけ早期発見・早期治療をおこなうこと大切です。

そのために、内視鏡検査をいかに、気軽にそして、楽に検査を受けてもらえるかが大切であると考えています。